

カキ生育情報

千葉県

平成20年9月号

【8月の気象】

平均気温は、平年に比べ第1～第3半旬で高く推移し、第4～第6半旬で低く推移し、平均気温はほぼ平年並であった。

降水量は、平年に比べて第6半旬で多かったが、その他の半旬で0～10mmと少なかった。月合計降水量は79mmで平年に比べて82mm少なかった。

日照時間は、第2～第4半旬は平年を超えていたが、第1、第5、第6半旬では平年を下回った。月合計日照時間は187hrで平年に比べて33hr短かった。

表1 平成20年8月の気象(暖地園芸研究所)

月	半旬	平均気温(°C)		降水量(mm)		日照時間(hr)	
		本年	平年	本年	平年	本年	平年
8月	1	26.8	25.9	2	27	33	37
	2	27.3	25.9	0	24	46	37
	3	27.1	26.0	4	24	43	36
	4	25.7	26.0	0	32	36	35
	5	23.5	25.9	10	27	13	35
	6	24.8	25.6	64	29	16	40
合計/平均		25.8	25.9	79	161	187	220

【樹および果実の生育】

8月の前半は前年と同様に高温少雨であった。暖地園芸研究所では灌水を行った。果実の大きさは西村早生、松本早生富有、富有のいずれの品種でも平年よりも小さかった。また西村早生は8月下旬から着色が始まっていることから収穫期は平年と同様に9月中旬から10月上中旬までと予想できる。一部にカキノヘタムシガによる食害がみられたが、概ね病害の発生は少ない。

いすみ市の西村早生では、7～8月にかけて降水量が極めて少なかったために昨年と同様に玉伸びがやや悪かった。また既に着色が始まっているため、今年是小玉傾向で収穫時期は平年並になると考えられる。大きな病虫害はなかつた。

市原市の松本早生富有では、果実の大きさは昨年とほぼ同等であった。またコナカイガラムシ及びカキノヘタムシガの発生が見られた。

表2 果実の発育(平成20年8月30日)

品種	調査地	横径(cm)			縦径(cm)			果径指数		
		本年	昨年	平年	本年	昨年	平年	本年	昨年	平年
西村早生	いすみ市	5.7	5.8	-	4.0	4.5	-	1.41	1.29	-
	暖地園研	5.9	6.5	6.3	4.4	4.7	4.6	1.34	1.38	1.37
松本早生富有	市原市	5.9	5.8	-	4.2	4.2	-	1.40	1.38	-
	暖地園研	5.8	5.7	6.4	4.4	4.4	4.7	1.32	1.30	1.34
富有	暖地園研	6.2	6.2	6.6	4.8	4.9	5.0	1.29	1.25	1.30

注1) 平年値は、暖地園芸研究所における平成2年から17年間の平均値

【9～10月の作業の要点】

収 穫

西村早生の収穫が始まり、いよいよ収穫シーズンの到来である。カキの果実は樹上で成熟しながら大きくなり、収穫後に品質が向上することはない。早採りすれば、大きさ、品質の面で適熟の果実に劣り、消費者にカキ本来の味を提供できなくなる。

したがって、早採りは避け、収穫前にはカラーチャートを用い適熟の色を確認し、適熟果の収穫に努める。適熟の色はへた部の果皮色で判断し、西村早生、富有はへた部4、松本早生富有はへた部4.5を目安にする。西村早生では、渋果の混入を防ぐため、必ず渋果判定機による選別を行う。

追 肥

貯蔵養分の多少は、翌年の樹の生育と着花量を左右する。貯蔵養分を蓄積させるため、礼肥を施す。西村早生などの早生品種では収穫直後の10月中旬頃、松本早生富有、富有、次郎などの中晩生品種では着色初期となる10月中下旬頃を目安に、速効性肥料で施用する。窒素の成分で、年間施肥量の15%程度となる2～3kg/10aが適当である。

病虫害防除

9月上旬～中旬にカキノヘタムシガ、コナカイガラムシ類を防除するため、バンド誘殺を行う。また、カキノヘタムシガの被害果は、地中に埋没する。果樹カメムシが発生している園では適宜防除を行う。炭疽病は9月中下旬に病原菌が飛散しやすくなるので防除をおこなう。うどんこ病は秋期に2次感染を繰り返す恐れのある園では防除が必要である。また早生品種と晩生品種の混植園では収穫前使用日数に特に注意する必要がある。これらの防除は千葉県農作物病虫害防除指針に基づいて行う。

《生育情報の問い合わせ先》

※ 千葉県農林総合研究センター暖地園芸研究所果樹研究室 TEL 0470-22-2961

果樹の生育情報は「ちばの農林水産業」の「生産技術に関する情報」でもご覧いただけます。 <http://www.pref.chiba.lg.jp/nourinsui/>